尾瀬が原山行報告

月　　日：　2015年5月2日～5日
参加者：　I田、S本、Y尾、K岡（報告者）

1. コースタイム

5/2：高の原（7:00）～京奈和/名神/中央/長野/上越/関越/～沼田I/C～　R120～
戸倉・尾瀬第一駐車場（18:00、テント泊）
5/3：尾瀬第一駐車場（5:45）～（乗合タクシー）～鳩待峠（6:20/6:35）～至仏山（9:25/9:55）
～山の鼻（11:30/13:00）～竜宮小屋（15:00）～燧小屋（16:40）
5/4：燧小屋（5:05）～燧ケ岳（8:46/8:55）～燧小屋（11:00/11:30）　～山の鼻（13:35/13:45）
～鳩待峠（15:15）～（温泉/買い物）～片品川河畔（18:00、テント泊）
5/5：片品村（5:30）～帰奈良（15:00）

2. 行動概要

関西方面から尾瀬ヶ原に入るのは鳩待峠が一般的だ。シーズンインすると津奈木ゲートから先が一般車両の運行が規制され入れない。春山のゴールデンウイーク期間中は通行規制は掛かっていないので鳩待峠まで入りテントを張る予定だった。しかし、鳩待峠の駐車台数が少ないためほとんどの車両が戸倉の尾瀬第一駐車場（280 台可）に停めている。やむを得ず 2 日の行動は駐車場までとしてテント泊とする。

3 日は早朝から車中泊していた入山予定者が動き出した。朝の 6 時から夕方の 6 時の間以外は津奈木でゲートが閉鎖になり約 3.5 キロの鳩待峠まで通行規制となる。ゲートオープン前には峠の駐車スペースを確保する車や乗り合いタクシーがゲート前で長い列をなしている。乗合タクシーは定員（8～10 人位）になり次第次々に出発していく。我々は 5 時 45 分のタクシーに乗りゲート前で約 10 分待機して 6 時 20 分に鳩待峠に着いた。

この時間帯は観光客は見当たらず全員が登山者で、峠から至仏山を目指して登っていく。一般登山者以外に山スキーやボーダーを担ぐ人もいる。

登山道は稜線の下を大きく時計廻りにカーブして高度を上げていく。悪沢岳の腹を巻き小至仏山あたりに来ると視界が大きく開けてくる。右眼下には東西 6km、南北 3kmの尾瀬ケ原が残雪を一面に残し広がっている。正面には大きく端正な燧ケ岳が鎮座している。視界を回すと確認できる百名山だけでも 10 座はある。まことに雄大な景観だ。そこから少し急雪面を上がると至仏山（2221m）のピークだ。三角

点、標識柱の周辺一帯は岩が露出していて残雪はない。入れ換わり立ち替わりピークで記念写真をとる風景はどこでも変わりない。我々も四人揃って記念の写真をお願いする。

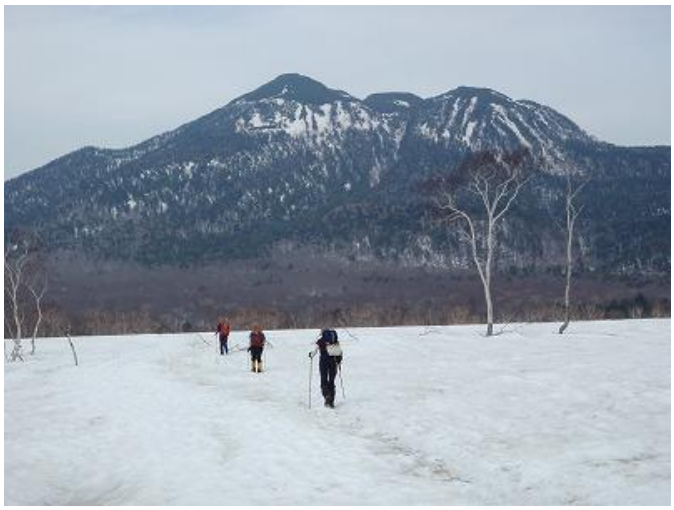
ゆっくり休憩をとり、その後尾瀬ヶ原の西の基点、山の鼻を目指す。かなりの急な下降雪面でビニールシートなどを敷いて尻セードを交えながら一気に下降する。

山の鼻のヒユッテで飲む生ビールの味は格別だ。ジョッキ一杯でおさまらない魔力の味だ。これからの先の長い雪原の歩行が心配したが杞憂だった。前回はメロメロで大幅に遅れたI氏はハイオクを補給したように快調に飛ばす。

所々で木道が露出しているところもあるが堅い雪原が一直線に続いていて苦労することなく歩行が出来る。牛の首あたりは池塘の多いところで雪原の融水で浸水箇所があり迂回する。快調に進むI氏は勢いあまって解けた雪面に入り膝まで水没してしまった。

竜宮小屋で休憩をとりその後しばらくして下田代十字路の燧小屋にほぼ予定の時間に着く。

小屋の木製湯船の風呂で汗を流し、美味しい夕食に下鼓を打ち早めに就寝する。



4 日は燧ケ岳登頂して昨日の往路を山の鼻までもどりそこから約 200mの標高を鳩待峠までたどる長丁場の一日になる。そして、峠発の乗り合いバスの最終時刻が4時だ。時間的にも急がなければならない。

前夜に準備して貰った大きなお握り二個と味噌汁、佃煮の朝食を部屋で取り5時5分に出発。燧ケ岳のすそ野は広いブナの原生林である。小屋を出て左に行けばテープのある分かりやすいルートがある。しかし、右に歩きだした。I氏とS氏はナビを手に所々でチックしながら進む。K氏はピークを誤認して右方向に離れてルートを探しに歩きだす。最終的に、ナビと先発者の踏み跡をフォローしながら 4 人が揃って進む。しかし、進んでいる方向が正規のルートよりずれていることに 2200 メートル辺りで分かる。踏み跡を残していった先発登山者のカップルがピークはこの先ではない、あっちだ。踏み跡を辿って来て貰ったのに間違っていました。すみませんと詫びを言いながら下降してきた。K氏の誤認と同じ誤認をしていたようだ。ピークが見えているのでその方向にルートを修正し急雪面を登っていく。8年前に登った現場が思い出されて、その時N嬢がここでギブアップしたとか思い出話をする余裕が出てきた。岩稜を登りきったところから残雪がなくなりアイゼンを外し岩が露出した尾根筋を暫く進むと頂上に着く。尾根筋は風が強く体温を奪われ寒い。上着を着込み頂上の岩か

げで温かいコーヒーと行動食をとり早々と降りることにする。今日の天気は降水確率 80%の予報だが雨はまだない。正面に見える昨日の至仏山は雲に覆われているし、周辺の山々の展望もすぐれない状況だった。

下山は谷筋のルートを進むにつれて前回このルートを上下降した時の状況がありありと蘇ってきた。初回はルートを外れることなく順調にピークを踏んだのに、二回目でありながらルートをそれたのは皮肉なことで、何らかの手抜かりがあったのだろう、反省ものだ。

少々時間のロスがあったが、最終の乗り合いタクシーの時間に間に合うこが確信できたが、若いI氏がペースを上げて一足先に鳩待峠に行き、タクシーに乗り駐車場まで車を取りに行くという申出でに甘えることになった。そのお陰で三人はゆっくりとしたペースで歩くことができた。自分の苦痛や行動を犠牲にして、人の喜びを無常の喜びとするI氏の尊い行動に深く頭を垂れ感謝感激する。

夕方近く復路を走っていると片品川の河畔に満開の桜並木が目に入る。今夜のテン場は桜の基だとそこへ直行して、近くの民家を訪れて事情を話す。この敷地は自分の私有地で何処にでもテントを張って下さい、水もこの水道をお使い下さいとのこと。

温泉で汗も流し、宴会の食料、アルコールを仕入れて、旅先で身知らない方からこのような好意を受けて楽しかった山行を締めくくることが出来ました。

平忠度の和歌「行きくれて木（こ）の下かげを宿とせば花や今宵のあるじならまし」を地で行くようなな光景でした　。